発行所　加治木町役場
発行人　緒方明男
編集者　中元邦夫
印刷所　吉屋印刷所

十二月五日は町長選挙

あなたの名前は名簿からもれていませんか

皆さんの最も関心の深い町長選挙が十二月五日に執行されることになりました。

この選挙に使用する名簿は、さきの衆議院議員総選挙に使用したものと同じ名簿を使用することになっておりますので、衆議員選挙の際名簿に記載洩れのため投票出来なかった方とか、その後本年八月二十四日までに他町村より加治木町へ転入された方、或は本年十一月二十四日までに満二十才に達した方は来る十一月二十四日から二十七日迄の間に補充選挙人名簿登録申請書を選挙管理委員会事務局え提出下されば、補充選挙人名簿に登載して投票する事が出来ますので該当の方は一人洩れなく申請下さるよう御願いいたします。

なお、さきに提出して戴きました九月十五日現在に於ける選挙権資格調査票によつて作製する名簿は、今度の町長選挙には使用出来ませんので念のため申し添えます。

町長選挙に使用する名簿に登載されているかどうか疑問のある方は、名簿を一度閲覧下さるよう御願いいたします。

（選挙管理委員会事務局）

（加中）理科教育研究中心校として県が指定

人間が足で立つて　手世界の平和を希うのは、を自由にした時、他の動原爆の恐怖よりも、交通物とは異つたものになつの発達、文化の交流、物たのである。手の発達が質の往来のたやすくなつ大脳の発達を促進した。たための親近感からである。

今日でも、精薄児の教育は手工芸が中心にならねばならないとされるのはこのためである。

一つの世界は科学技術の世界を骨格として、もろもろの文化をもつて、肉付けしたものである。

「技術する人間」が人間の原型であつた。「人間形成」においては、技術の教育が知性の教育よりも、より本質的なものであるとせられるのは、このためである。

こういう世界を認識し、こういう世界観をいだくためには、自ら科学技術を身につけることが必要である。

世界は科学技術によつて、一つになりつゝある

科学技術教育の振興は我が国の生産を高めるための、経済的動機で考えられたようであるが、その内に含まれる意義は、これからの人間は、科学技術を身につけなければ新しい「科学技術的世界」を、ほんとうに認識して、その中の一員となることが出来ないということである。

普通教育、一般教養における科学技術教育は、新しい人間形成のためである。

鹿児島県は、科学技術教育振興の方策として、県下五校の中学校を、理科教育研究中心校として指定し、周辺の市郡内中学校の科学技術教育の水準向上を企図し、中心校に、研究の拠点を置き、他校のリーダーとなつて来るべき日本の科学進展の基礎づけをするよう、重大にして光栄ある責務を我が加治木中学校が負わされたのである。

今後理論深究に、実験研究に、或は学習法の研究や、実地授業の参観見学が、盛になるであろう加治木中学校の門柱に「鹿児島県指定、理科教育研究中心校」と、新しい門札が掲げられている。名門加中の声価、いや高し。（教育長　市来朴）

（平松監督一行の大活躍の情景）

太鼓踊り「小がね」

庭踊りの撮影

広く全国に紹介

加治木のタイコ踊り

県下でも一番賑やかだといわれている本町の名物太鼓踊りが広く全国に紹介されることになつた

撮影は東映教育映画部平松幸彦監督のメガホンによるもので、今回の撮影は〝日本の祭り〟夏祭り才二巻として、九州では熊本県の山鹿燈ろう祭りと本町の太鼓踊り、吉左右踊りが計画に入つたわけ、現在十一月完成の予定で仕上作業の段階に入つているが、仕上りは八百フイート、上映時間は二十二分となつている

撮影は去る八月二十八日から四日間に亘つて行われ、町の鳥瞰、桜島、環境、夏の空、流水、川植物、仮集合、予行練習農家風景、春日神社附近中食の場、群衆、太鼓踊り、吉左右踊り、山道を下る祭り参加の人々、化粧衣裳着付、ベントウ作りの風景など仮屋馬場一帯を撮影した。

（写真は仮屋馬場にて）

公文書が縦書から横書になりました

町では七月一日より公文書などの書き方を横書に改めることにいたしました。

鹿児島県庁は本年四月一日より横書を採用し、又隣接町村でも逐次実施しつゝありますが、当町としては、縦書と横書の長所と短所を比較検討した結果、文書の整理上、又事務能率向上などの点より横書に改めることにいたしました。

今後、皆様のお手元に届けられます殆どの書類が横書になるわけですが長年縦書を愛用して来た私達には一寸見にくい感もいたします。

特に、御老令の方々には親しまれぬかと存じますが、しかし乍ら、これは決して「横書がアメリカ式であるから」といつた簡単な意味からでなく次に主な利点を列挙し皆様の納得と御了解を得るとともに皆様も又横書を御愛用下さるようお願いいたします。

横書の利点

一、書きやすい

ペンや鉛筆でひじをつけて書く場合は、横書きならそのまゝで二十糎位は書けるが、縦書ではせいぜい五、六字しか書けない。

二、慣れゝば読みやすい

我々が文書を読む時はひとかたまりづつまとめて読むのであるが、その視野はだ円形で横の方が縦よりも二倍も広いため横書の方が抵抗が少なく疲れない。

また縦読みの場合には目から文字までの距離が不同で眼球の調節運動が毎行繰り返される為疲れる。

三、書いたあとをこすらないですむし、よごれない。

四、書き終つた部分が見える。

五、数式、ローマ字の書き方と一致する。

六、用紙の節約になる。

七、つづり込みを統一することができる。

（総務課庶務係）

二戸一枚配付

早目に回覧下さい

加治木町の人口

―（10月1日現在）―

◉ 人口　20,477人

（この数字は常住人口調査によるものであすまり）

男　9,859人

女　10,618人

◉ 世帯数　4,801戸

◉ 9月中の出生死亡

	出生	死亡	自然増
男	13	8	5
女	17	7	10
計	30	15	15

教育委員長に大山綱男氏

教育委員会では、去る十月十六日委員会を開き岡山順之助氏の委員長任期満了に伴い、後任として大山綱男氏を選任した

なお、委員長職務代理者として、松田真平委員を決め、前委員中村敬次氏の後任として、さきに町長から任命された田中早苗委員（西別府上嶽）を迎え和気あいあいたる中に三十三年度追加更正予算の審議を行い、今後の教育委員会の根本的なことについて話し合い会を閉ぢた。

香典返しを寄附

木田西塩入の岡山みつさんから忌明お礼として町福祉協議会たすけあい資金に五、〇〇〇円、育英奨学資金へ五、〇〇〇円の御寄附を戴きました。

御芳情ありがたく拝受し、町民皆様と共にお礼申し上げたいと存じます

警察署からお願い

―町を静かにしましょう―

十月一日から町を静かにする運動が行われております。

近頃文化の発展に伴つて各種の騒音、特に交通騒音が著しく増加しております。

これはお互の生活の安静を害しているばかりでなく、正しい交通の在り方がゆがめられて、交通事故の大きな原因ともなつておりますので、十月一日から自動車の警笛は「危険防止のためやむを得ない場合」又は指定された場所以外は鳴らしてはならないことになりました。

その外一般の商業放送や宣伝放送もできるだけ低い声で放送するようになつております。

また、十月二十二日から十日間秋の全国交通安全運動が行われております。

車を運転する人達にだけ警笛を鳴らすなというだけでは騒音防止も交通事故をなくすることもできません。

歩行者が交通規則を守つて警笛を鳴らさなくともいゝように正しい歩き方をして協力しなければならないと思います。

歩く時、自転車に乗つたときは次のことをよく守つて静かな事故のない町をつくりましよう。

歩くとき

▲必らず右側を通りましよう。

▲加治木町国道では必ず歩道を通りましよう。

▲横断は必ず止つて右左の安全をたしかめましよう。

▲子供を道ばたで遊ばせないようにしましよう

▲車の直前、直後の横断はやめましよう。

自轉車に乗るとき

▲自転車は左はしを一列になつて通りましよう

▲交通のはげしい交叉点では自転車から降りて横切りましよう。

▲小さな道から大通りに出るときは必ず止まるか、徐行しましよう。

▲自転車の二人乗り無灯火はやめましよう。

道路は広く美しく

▲道ばたに商品やいろいろの物を置きつぱなしにしないようにしましよう。

▲自転車の登録のすんでいない人は早目にもよりの自転車屋で登録して下さい。

町民体育大会は

―十一月十六日―

本年で十回目を迎える町民体育大会は、来る十一月十六日開催されることになり、現在町公民館で計画が進められている。

着々進む学校建築

先に教育委員会が計画し県、国に申請中であつた永原小学校、並びに、錦江小学校の鉄筋校舎建築が認可になり、愈々本月中に着工の運びとなつた。

完工は来年三月の見込みである。

考える農業への転換（九）

生活改善と農業改良

戦后色々と農村指導機構の中に、農業改良普及事業なるものが誕生し、生活改良普及員の制度が制定され、女の技術員が配置されたときあんな小娘が、しかも自転車に乗つて何が出来るものかと話題にのぼつてから十年の歳月を過した。

此の毛色の変つたそして目新しい生活改良普及員の人達が二～三ケ町村を担当しながら、自からも普及手段とか、方法の研修を重ね、生活改善グループをつくり、農村の婦人がお互に話し合える場をつくり、その話し合の中から、皆んなの共通となるなやみ（問題点）を見い出し、今まで一人ではどうにもならないと思つたことが、複数で考え複数で解決の糸口を見いだすことを知り、生活改善の意慾が高まりつゝあることは生活改良普及員の努力もさることながら、グループ員なり、関係機関の方々の御協力の賜であると、同慶に堪えない処であります。

農業は農地と家庭と人間によつて成り立つておることから、我々の農業改良普及事業の主要なプログラムは、それ故に圃場の管理と生活改善と青少年の育成と言ふ三つの分野もつことになつているのである。

つまり農業をするには農地がなければならず、それをうまく管理するには、色々の農業技術が必要で、それを常に改良させ発展させてゆかなければならない。が又反面家庭生活を圃場の管理と共に、管理してゆくのが生活改善の仕事である、更に、農業は土地と家庭の問題だけでなく、それを引きついでゆく人間のことを考えなければならない、それが青少年育成の仕事であると思います。

とかく今までの農村は農業のために生活はおしつぶされており。農作業が忙しくなると、仂いたカロリーよりも食事で摂るカロリーの方が少い。こうした毎日が続くことによつて、農繁期には体重が減り病人が増える。作業衣にしても、古衣を作業衣にする習慣……世の中はどん〳〵進んでいるのに、農家の人達の生活だけがとり残されて良いはずはありません

農業経営も綜合的に改善して、収益を増加すると共に今までの経営費の残りで暮すと言ふ考え方を、今少し計画的な生活で健康で明るい家庭生活を策すべきでありましよう。

（加治木地区農業改良普及所長　松岡登記夫）

……つゞく……

現代の青年團活動に思う

其の二

五五号町政だよりで現代青年団のもつ「なやみ」「改善点」などについて見解の一端をのべさしていただいたので本号では部落、校区青年団の組織運営など一般的なことについて述べさして貰いたいと思う。

その現状と問題点

加治木町内にある部落青年団の組織は、現在三四団体となつている。

その中で最も不健全だと思われる青年団の組織運営について、発展性をはばむものは何かという事に検討を加えてみた、その中でとり出された問題は……。

◉青年の自覚がたらない事に原因がひそんでいるという事だつた。というのは……

1、何も目的をもたないまま入団しているということ、つまり無意識のまゝ加入しているということである。

2、他からの勧誘指示によつて加入しているということ。

3、目的をもつて加入したものゝ中にも、加入しなければ他の青年から白眼視されるということ。

まだあげると限りがないが大体以上の点に集約できるようである。

つまり、このような集りの中にあつて年令差、性別、職業、知的差など左右して運営が円滑にいつていないということである。

次に校区の役員にきいて共通した「なやみ」の点は……。

1、会に出る機会が多いので家の者が小言を言う。

2、団費が集らない、活動するにも資金の裏付がない。

3、会を開いても集りが悪い、単に若い者の遊び場所に考えかるくみている。

4、あまり会が多いので自然に家庭経済にひゞがいる。

5、団員が少ないので資金に困る。

6、大人達の理解がもう少しほしい、よく批判はするが理解がない。

7、未加入団員がいるので団意識にとぼしい。

そのため悪い影響をおよぼしている。

以上とり出された問題点は、加治木町だけでなく全県的ななやみであるこのような問題を背負いながら、彼らは青年自身の生活を守り抜くため、自から地域振興のための課題ととりくみ活動を展開して実績をあげつゝあるが、我々はすべて団の実状を充分把えて、青年たちの生存している地域の実態を統計的観念的ではなしに、実感として把えることが先決問題ではなからうか。かゝる問題を一挙にして解決することは、きわめて難しい事であるかもしれない、しかし、この傾向は、今後益々ひどくなるように思う。

青年たちの「なやみ」の中には、自体で解決できるものと、できないものとがある、団自体で解決できるにせよ、問題によつては、解決に苦しむような気がする、主体性をもたせるためには、あまり考えてやらなくとも良いというような反論もあるかも知れないが、彼等が望んでいるものは、理解ある社会の愛情であり、家づくりの中にあつては、経営主（父親）の愛情である。

青年の言い分と親の立場

青年たちは、おれたちの手で経営したいと望んでいるが、極端ないゝ方をすると親が邪魔なのである、しかし、青年たち自体も反省しなければいけない、親は何故おれたちを信用しないのだろうか、何故経営に参加させないのだろうか、青年学級や、団活動の中で何か新らしいものをとり入れ知つていても、おれたちは親に前向きになつて言つているだらうかということである、こゝで大切なことは、やはり青年が親に歩み寄るという事でしかない。歩み寄るということは、青年たちの考えをわかつて貰うために親たちともつともつと話す機会をもつということである。

話し合いは大切である

話し合いの最少の単位は家庭である、青年たちだけが考え学習しても、一つもラチがあかない、話し合いテーマのえらび方（公民館長　中元邦夫）

図書館だより

鹿児島県には現在約二〇〇〇団体以上の図書を利用するグループが出来ています。そのグループは農業研究のグループであつたり、生活改善とか裁縫や生花のグループであつたりして職業や趣味の広い範囲のグループがふくまれているのです。

中には部落を一つのグループとして、一五〇〇戸の家庭がその生活の中に読書を取り入れているところもあります。現在加治木町の図書を利用するグループは十三ありますが、ほとんど農村の民主団体でしかも八割が本年度に出来たものです。読書意欲が向上しつゝあることは同慶にたえません

図書館自体も農業図書の利用については特に力を入れ公民館の協力のもとに各種集合の場を利用してPR活動に全力を注いでいます。このたび農協常務の協力を得て県立図書館の巡回農業文庫を上場各支所及び中野小に三十冊入四箱を入れ、また中野小PTAに一般教養図書を五十冊入れました借料は無料ですからどなたも自由に御利用下さい一般図書の貸出期間は個人で五日、グループで一ケ月を原則としていますが事情によつては御相談に応じます。全国読書週間（十月二十七日～十一月九日）も近ずきましたので御来館をお待ちしています。なお本町の図書を利用するグループは、婦人部（曲田、迫、高井田、弥勒、毛上）青年部（楠園、たんぽぽ）一般（町、中野）外に農業文庫四で以上十三です。参考「蒲生町は二三四」

新刊図書紹介

産業圖書

蔬菜のトンネル栽培、水稲多收穫の科学技術、バレイショの増收技術、新肥料の使い方、誰にもわかる肥料の知識、農事研究と青年運動、村づくりと家づくり、しいたけ栽培の実際、山羊の飼い方と加工法、続誰にもわかる肥料の知識、農村に生きる青年、農民の暮しと考え、飼料作物、園芸食品加工法、葉面撒布の知識と実際、蔬菜2、果樹の整枝剪定、草花円芸十二ケ月、趣味の家庭円芸、農業技術図解集

一般圖書

たのしい手芸、世界の火薬庫をのぞく、谷崎潤一郎全集、西郷隆盛全五巻、キャンピング、社会主義対資本主義、経済白書、日本古典文学大系一九、森と湖のまつり、山下清放浪日記、夜の鶴無法松の一生、海峡、現代教養全集一、日本の貨幣、近代経済学全集V、宮沢賢治集、風土記日本現代国民文学全集、黄表紙洒落本集、姓娠から出産まで、南極越冬記、浅草の顔、新聞語辞典、運河上、輪唱、旅愁の都、告白、天狗の面断弦、道、うらない風流話、スポーツ小六法、経営学入門、黒地の絵、朝霧慕情、氷柱、たから島、はだか風土記、虹、レース編、椿説弓張月上、つづり方兄妹、汁と漬けもの、粘土の犬、社会心理学入門息子の結婚、測量学、串田孫一随想集2、御伽草子、駅前旅館、夫婦百景、生活を豊かに、小六法これからの林業経営、野ざらし姫、緑に匂う花、

児童圖書

荒地とたたかう人々、灯をかかげて、かくれた偉人、世の中を明るくした人々、土に生きる人々、正義と愛に生きた人々、真実に生きた人々、荒野をひらいた人々、幸福な村をつくつた人々、水とたたかう人々、移植と改良につくした人々、村に光をかかげた人々、十五少年漂流記、くろうま物語、新日本少年少女文学全集、以上のほか婦人にすゝめる図書を購入手続中。

（館長末永菊雄）

郷土文芸

『逢』

―加治木短歌会―

幾人が逢ひて別れし十字路か小雨の中に感傷は生れて　野中静子

たわやすく又逢はんことを約せしが東京は遠く遙かなるかも　岡山みち絵

胸いたく逢ひしことなど忘れゐて無事平穏の吾れのこの頃　久保妙子

若き日の思ひをもれるアルバムに故人の君は笑みをたゝえて　美坂ハマ子

湯の宿に逢ふ日の思ひ新川のとろの濃緑よりも豊けく　鬼塚文子

露うちし朝菖蒲の葉のかげに静かな蝶の逢瀬がありぬ　川崎ハツ子

夢に逢ふ母に声なく眼ざむれば時計の刻み正しく聞ゆ　児玉妙子

ウインドに疲れし吾れを見出せば悄然と町を逢はずに帰へる　川畑笑子

末の子の初任地を訪ふ出水路は明かるく晴れて海青かりき　木場フヂエ

スポーツ

役場チーム縣下バレー大会で優勝

県下市町村職員バレー大会は、去る十月十日鹿児島市中央公園コートで十三チームが参加して行われ、姶良郡代表として参加した加治木町役場チームは、初回に優勝候補と目される吉田村（鹿児島郡）と熱戦の末2～1と降し、後は順当に勝ち進み決勝戦で宮之城町（薩摩郡）を2～0と破り晴れの初優勝をなしとげた。

名月ハイキング

仲秋の名月は山頂でと、町体協山岳部では、体協加入第一回の名月ハイクを九月二十七日、A組霧島神宮～高千穂河原～高千穂峯～御池～狭野神社～高原町コース。翌二十八日B組霧島神宮～河原～中岳～新燃～韓国岳～大浪池～林田コースの二手に分けて行つたが両夜とも好天に恵まれ、上に満月や無数の星、下にも黄色く燁やく少数の灯を眺め、夜霧にぬれて名月気分を満喫した後全員元気少々ねむそうな眼で無事帰着。

加治木に國体九回目のベテラン

第十三回國民体育大会は十月十九日より二十三日まで富山市で盛大に行われたが、町体協の小浜氏長氏は本年も硬式庭球壮年男子の部に九州代表として、九回連続の出場権を獲得し、国体で活躍した。

「動く菊人形」

―十一月二十三日まで―

動く菊人形は十月十日の手で経営したいと望んでいるが、極端ないゝ方をすると親が邪魔なのである、しかし、青年たち自体も反省しなければいけない、親は何故おれたちを信用しないのだろうか、何故経営に参加させないのだろうか、青年学級や、団活動の中で何か新らしいものをとり入れ知つていても、おれたちは親に前向きになつて言つているだらうかということである、こゝで大切なことは、やはり青年が親に歩み寄るという事でしかない。歩み寄るということは、青年たちの考えをわかつて貰うために親たちともつともつと話す機会をもつということである。

話し合いは大切である

話し合いの最少の単位は家庭である、青年たちだけが考え学習しても、一つもラチがあかない、話し合いテーマのえらび方（公民館長　中元邦夫）

親の立場

青年たちは、おれたちの手で経営したいと望んでいるが、極端ないゝ方をすると親が邪魔なのである、しかし、青年たち自体も反省しなければいけない、親は何故おれたちを信用しないのだろうか、何故経営に参加させないのだろうか、青年学級や、団活動の中で何か新らしいものをとり入れ知つていても、おれたちは親に前向きになつて言つているだらうかということである、こゝで大切なことは、やはり青年が親に歩み寄るという事でしかない。歩み寄るということは、青年たちの考えをわかつて貰うために親たちともつともつと話す機会をもつということである。

話し合いは大切である

話し合いの最少の単位は家庭である、青年たちだけが考え学習しても、一つもラチがあかない、話し合いテーマのえらび方（公民館長　中元邦夫）

新刊図書紹介

産業圖書

蔬菜のトンネル栽培、水稲多收穫の科学技術、バレイショの増收技術、新肥料の使い方、誰にもわかる肥料の知識、農事研究と青年運動、村づくりと家づくり、しいたけ栽培の実際、山羊の飼い方と加工法、続誰にもわかる肥料の知識、農村に生きる青年、農民の暮しと考え、飼料作物、園芸食品加工法、葉面撒布の知識と実際、蔬菜2、果樹の整枝剪定、草花円芸十二ケ月、趣味の家庭円芸、農業技術図解集

一般圖書

たのしい手芸、世界の火薬庫をのぞく、谷崎潤一郎全集、西郷隆盛全五巻、キャンピング、社会主義対資本主義、経済白書、日本古典文学大系一九、森と湖のまつり、山下清放浪日記、夜の鶴無法松の一生、海峡、現代教養全集一、日本の貨幣、近代経済学全集V、宮沢賢治集、風土記日本現代国民文学全集、黄表紙洒落本集、姓娠から出産まで、南極越冬記、浅草の顔、新聞語辞典、運河上、輪唱、旅愁の都、告白、天狗の面断弦、道、うらない風流話、スポーツ小六法、経営学入門、黒地の絵、朝霧慕情、氷柱、たから島、はだか風土記、虹、レース編、椿説弓張月上、つづり方兄妹、汁と漬けもの、粘土の犬、社会心理学入門息子の結婚、測量学、串田孫一随想集2、御伽草子、駅前旅館、夫婦百景、生活を豊かに、小六法これからの林業経営、野ざらし姫、緑に匂う花、

児童圖書

荒地とたたかう人々、灯をかかげて、かくれた偉人、世の中を明るくした人々、土に生きる人々、正義と愛に生きた人々、真実に生きた人々、荒野をひらいた人々、幸福な村をつくつた人々、水とたたかう人々、移植と改良につくした人々、村に光をかかげた人々、十五少年漂流記、くろうま物語、新日本少年少女文学全集、以上のほか婦人にすゝめる図書を購入手続中。

（館長末永菊雄）

郷土文芸

『逢』

―加治木短歌会―

幾人が逢ひて別れし十字路か小雨の中に感傷は生れて　野中静子

たわやすく又逢はんことを約せしが東京は遠く遙かなるかも　岡山みち絵

胸いたく逢ひしことなど忘れゐて無事平穏の吾れのこの頃　久保妙子

若き日の思ひをもれるアルバムに故人の君は笑みをたゝえて　美坂ハマ子

湯の宿に逢ふ日の思ひ新川のとろの濃緑よりも豊けく　鬼塚文子

露うちし朝菖蒲の葉のかげに静かな蝶の逢瀬がありぬ　川崎ハツ子

夢に逢ふ母に声なく眼ざむれば時計の刻み正しく聞ゆ　児玉妙子

ウインドに疲れし吾れを見出せば悄然と町を逢はずに帰へる　川畑笑子

末の子の初任地を訪ふ出水路は明かるく晴れて海青かりき　木場フヂエ

少年相撲大会

十一月九日加高で

町公民館と体協共催の鶴ケ嶺盃争奪少年相撲大会は、来る十一月九日（日）午前九時三十分から加治木高校で開催することになつた。

出場希望者は中学生三名、小学生二名を一チームとして、十一月五日まで公民館に申込めばよい

地區編成

◉柁城校区　班別編成
◉錦江校区　三地区

1・みろく内場地区　2・向江町、塩入地区　3・岩原、須崎、浜村地区
◉竜門校区　二地区
◉永原校区　二地区
◉中野校区　一地区
◉鎮守校区　一地区

社教委員長に城松夫氏

さきほど開かれた社会教育委員会で委員長、副委員長の選出を行い、その結果委員長に城松夫氏、副委員長に軸屋蔵助氏を選出した。公民運営審議委員会の委員長、副委員長も両氏が兼ねる。